

■BBC 発行の広報誌を創刊号から完全デジタル化

好評発売中!!

BBC

The Listener

Historical Archive 1929-1991

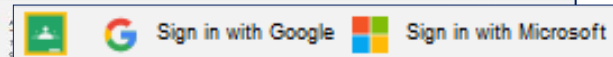
ザ・リスナー オンライン版

BBC(英国放送協会)の広報誌として、メディア、文化、時事問題に関する記事を掲載した『The Listener』の1929年の創刊号から1991年の終刊までを完全に網羅したオンライン版 **The Listener Historical Archive 1929-1991** のプラットフォームが一新され、より使いやすいデータベースとして機能が向上いたしました。

『The Listener』はラジオ放送、やがてはテレビ放送での番組内容を再生する媒体としてBBCにより創刊された週刊誌です。主要な文芸や音楽のプログラムの予告や定期的な新刊の書評なども掲載されております。寄稿者には、**E. M. Forster** や **George Orwell**、**Bertrand Russell**、**George Bernard Shaw**、そして **Virginia Woolf** や **John Maynard Keynes** をはじめ、著名な人物が数多く含まれます。もちろん寄稿者で記事をブラウズすることも可能です。

初号から最終号までの約 129,000 ページを完全収録!!
インターフェイスが一新されて機能が向上いたしました

- IP アドレス接続・同時アクセス無制限
- 創刊から終刊まで完全に収録
- すべての記事がフルテキスト検索可能
- 論文名や寄稿者の名前で検索
- 発行日でのブラウズ機能
- 検索履歴の表示
- 保存・印刷・ブックマーク・メール送信機能
- 検索用語のハイライト
- 関連記事の探索機能
- 検索用語の頻度を時系列にグラフ表示



Google Drive, Microsoft One Drive アカウントへのログイン機能により、文書保存が可能になりました



FTE	<5,000	5,001-15,000	15,001-30,000	30,001+
Archive Purchase 買い切り価格	価格は弊社までお問い合わせください			
Hosting Fee 年間管理費				
Subscription 年間購読				

※バックアップ用 HDD は別売りです。なお、本商品は Portico によるバックアップ保証がございます
※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

無料トライアル承ります! 詳細は弊社までお申し付けください

日本指定代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp



イギリス人の文化生活における BBC

— The Listener の資料的価値を理解する鍵 —

Times や Economist、Financial Times、Illustrated London News など、専門家でなくても一度は耳にしたことがあるイギリスの著名な新聞や雑誌と比較すると、Listener は一部の専門家を除けば、内容はもちろん名前すら一般には知られていないでしょう。Listener という雑誌を知るには、いきなり雑誌の記事内容に行く前に、発行機関である BBC がイギリス人の文化生活の中でどんな位置を占めているのか、というところから入っていくのがよいと思われます。音楽を例に取れば、BBC はクラシックからジャズ、ポップス、ロック、ワールドミュージックまで、多くの演奏を放送しています。また、毎年夏にロイヤル・アルバート・ホールで開催されるクラシック音楽祭プロムスの主催者、さらに音楽家への助成機関としても、BBC はイギリス音楽界に多くの貢献をしています。舞台芸術に眼を向ければ、毎年多くの演劇やミュージカルの制作、放送に携わり、多くの作家、演劇人に対する助成を行っています。音楽と演劇に関しては、BBC は今でもイギリス最大の制作委託機関として知られています。その他、BBC の教養番組、ドキュメンタリー番組のクオリティは世界が認めるところでしょう。時に「イギリス最大の輸出品」と言われる通り、BBC は報道、ドラマ、語学等を提供する中でイギリスというブランドを高める役割を果たしてきました。BBC は創立以来、公共放送として、視聴者に「情報を提供し、啓蒙し、愉しみを提供する (inform, educate and entertain)」ことをミッションとして掲げてきました。多くのイギリス人が BBC の放送を通じて文学、舞台芸術、音楽等の芸術に接してきたことを考えると、イギリス人の文化生活の中に BBC が深く根付いていることが伺えます。



BBC の高級誌

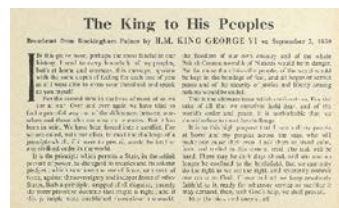


Listener は放送番組のテキストを永続的に保存することを目的として 1929 年に創刊されました。BBC が発行する雑誌としては、Listener 創刊の 6 年前に創刊された Radio Times があります。Listener が BBC の発行物の中で占めていたポジションを知るには、Radio Times と比較すると分かりやすい面があります。イギリスの新聞には高級紙と大衆紙という分類がありますが、Listener は BBC の高級誌、Radio Times は BBC の大衆誌と言えば、分かりやすいでしょう。とは言え、Listener が少数の読者だけを対象とする雑誌であったかというところではなく、むしろ広範な知的オーディエンスを読者とする雑誌と規定するのが、BBC のミッションに則してみると相応しいでしょう。

初期の放送番組に関する唯一の記録資料

放送初期の番組を記録したテープは、再利用されることが多かったため、残っていないケースが多く、テキストの形で残っているスクリプトが唯一の資料です。BBC の初期のラジオ、テレビ番組の内容を知るには Listener を参照するのが唯一の手段です。記事は大半がラジオ、テレビ番組のスクリプトや番組評で、放送番組に関わりを持たない記事は全体の約 10% です。

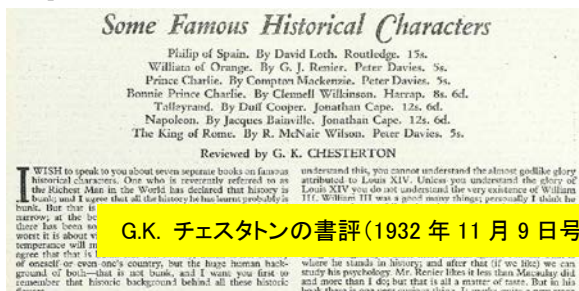
- エドワード 8 世退位スピーチ
- 第二次世界大戦勃発に際しての国王ジョージ 6 世のイギリス国民向けメッセージ
- 国民医療サービス (NHS) の開始を告げるアトリー首相の演説
- 歴史家 A.J.P. テイラーの連続テレビレクチャー
- BBC の看板報道番組 Panorama



書評誌としての Listener

周知の通り、イギリスには書評を重んじる伝統があります。Times Literary Supplement (TLS)、London Review of Books (LRB) のような書評専門誌の他にも、新聞や雑誌に多くの書評が掲載されます。それらの書評は日本の書評と比較すると長大で、また一個の批評作品として読むに堪えるものが多いと言われています。TLS、LRB のような書評専門誌を筆頭に、Sunday Times、New Statesman、Observer、Spectator 等の書評欄は、書物や文化の最新動向を知るためにはフォローしておきたいと見做されてきました。そして Listener も、その風格を備えた定評ある書評は高く評価されてきました。

書評は第一義的には最新の文化動向を知るツールとして利用されますが、それだけであれば古い書評を参照する必要はないでしょう。しかし、書評が批評であり、また批評の時代的変遷自体が研究対象になり得ることを考慮すると、Listener に掲載された書評も依然として学術的価値を持つことは言うまでもありません。



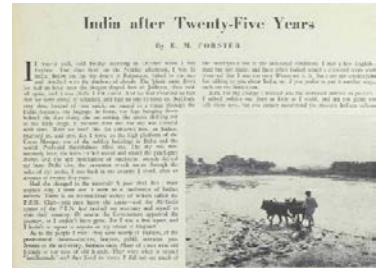
G.K. チェスタンの書評 (1932 年 11 月 9 日号)

文芸誌としての Listener

Listener は新人作家の発掘でも大きな役割を果たしましたが、これは文芸欄の編集者 J.R. Ackerley の功績に帰せられるとされています。Listener に作品を発表した数に上る作家の中には、W.H. オーデン、S. プラス、C. イシャーウッド、S. スペンダー、P. ラーキンらがあります。また Listener は、詩人の新作を掲載したことでよく知られています。新作の詩とこれに対する作家の批評を読むことで、詩が公表された時の文脈を発見することができます。BBC が放送する教養番組の一つに作家へのインタビューがありますが、Listener はインタビューのスク립トを多数掲載しました。1950 年代のキングズリー・エイミス、1960 年代のナボコフ、1970 年代の I. マキューアンのものが代表的なものです。

ソルジェニーツィンへの国外追放後初めてのテレビインタビューも Listener に掲載されました。これらは作家の伝記にとっての貴重な資料であるとともに、インタビューの中で引き出される作家の生の声は、その作品を理解する鍵を提供するでしょう。Listener の作家として、E.M. フォースターの名前を忘れることはできません。

1930 年頃から 1970 年頃まで 40 年間に亘るフォースターの Listener での批評は、書下ろしの書評から、BBC ラジオ番組での作家論、『インドへの道』刊行 25 周年を機に再訪したインド紀行など多方面に及びます。さらに、Listener には多くの批評作品が掲載されました。後に『言語と沈黙 Language and Silence』に収録される批評家ジョージ・スタイナーの『言葉からの退却 (The Retreat from the Word)』は、BBC の第三プログラムで放送されたものが Listener に二回に亘り掲載されたのが初出です。その他、『青髭の城にて (In Bluebeard's Castle)』など、スタイナーの重要テキストが Listener には掲載されています。



政治、経済から科学技術、文学、芸術、大衆文化、宗教、旅行、料理、ガーデニングまで広範なテーマ

Listener が掲載したのは書評や文芸関係の記事だけではなく、BBC の放送番組の多様さがそのまま Listener の記事の多様さになっています。国民医療サービス (NHS) の開始を告げるアトリー首相の国民向け演説、経済学者ケインズの時論、物理学者ロバート・オッペンハイマーの講義、美術史家ケネス・クラークの記念碑的「文明」シリーズ講義、動物学者デヴィッド・アッテンボローの講義など、広範なテーマに及びます。

人々がどのように戦争に動員されたか 「戦時下のメディア」研究の恰好の資料

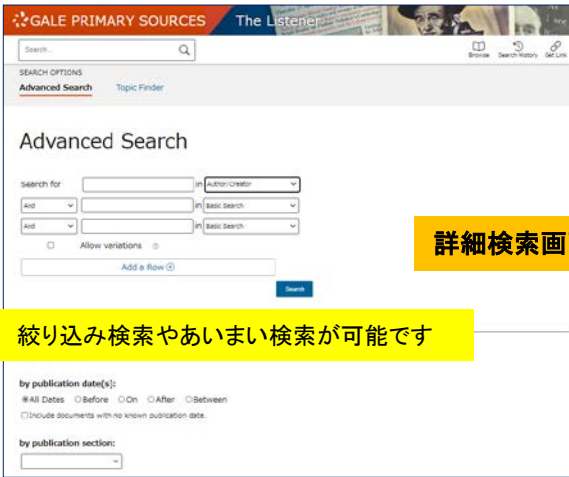
第二次世界大戦は、参戦した各国では前線の兵士だけでなく銃後の国民も戦時統制に組み込まれ、国民総力を挙げて戦われた総力戦として知られています。もちろん、メディアも戦時統制下に置かれました。1936 年に始められたテレビ放送が国防上の理由から中断させられると、BBC ラジオが情報のライフラインとしてイギリスの国民生活を支える上で大きな役割を果たしました。

BBC は対外宣伝放送に知識人をはじめ多くの人々を動員しましたが、中でもジョージ・オーウェルの活動はよく知られているところです。Listener にはオーウェルの BBC ラジオ放送番組のスク립トが掲載されています。また BBC は、疎開児童向けに教育番組を提供することで教材の不足を補い、一般市民の生活に役立つ番組を提供することで物資や食糧の欠乏を補いました。一例を挙げると、1940 年に Listener で始まった "The Housewife in War Time" は主として料理のレシピを提供するコラムで毎週掲載されましたが、戦後は "Advice for the Housewife", "Recipes for the Housewife", "Broadcast Suggestions for the Housewife" と名称を変更し、Listener の長期連載記事になりました。



メディア、イギリス史、イギリス文学の研究者のための資料

Listener が BBC のラジオ、テレビ番組に基づいて刊行されたことを考えると、メディア、マスコミの研究者が主要な利用者として考えられますが、先に述べた通り、BBC が国内ではイギリス人の生活に深く根付き、対外的にはイギリスブランドを象徴する存在として表象され、また Listener という雑誌が極めてイギリス的な雑誌であることを考えると、「イギリス (人) とは何か」、「イギリス史 (文化、文学) とは何か」、という問いを潜在的に発する学問であるイギリス史、並びにイギリス文学の研究者が、Listener の本来の読者であると言えるでしょう。



詳細検索画面

絞り込み検索やあいまい検索が可能です



発行日ごとのブラウザ画面

カレンダーの日付をクリックすると紙面が表示されます



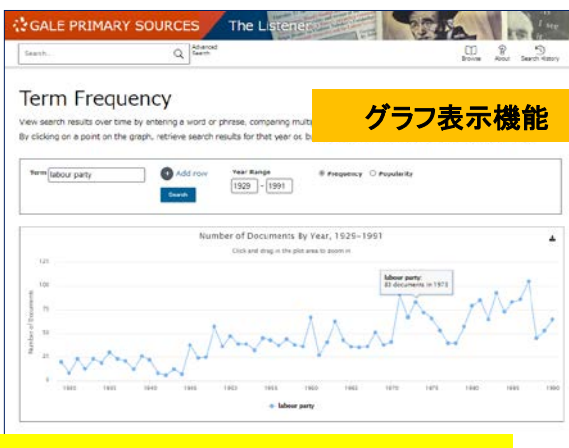
検索結果表示画面

検索語を含む記事がサムネイル表示されます
検索結果内での再検索も可能です



記事表示画面

検索語がハイライトされます



グラフ表示機能

キーワードの登場頻度を時系列に表示することができます。複数の単語を比較することも可能です



関連記事探索機能

大量の検索結果を視覚化することにより、意味ある結論へ効率的にナビゲートいたします

無料トライアル承ります！詳細は弊社までお申し付けください